

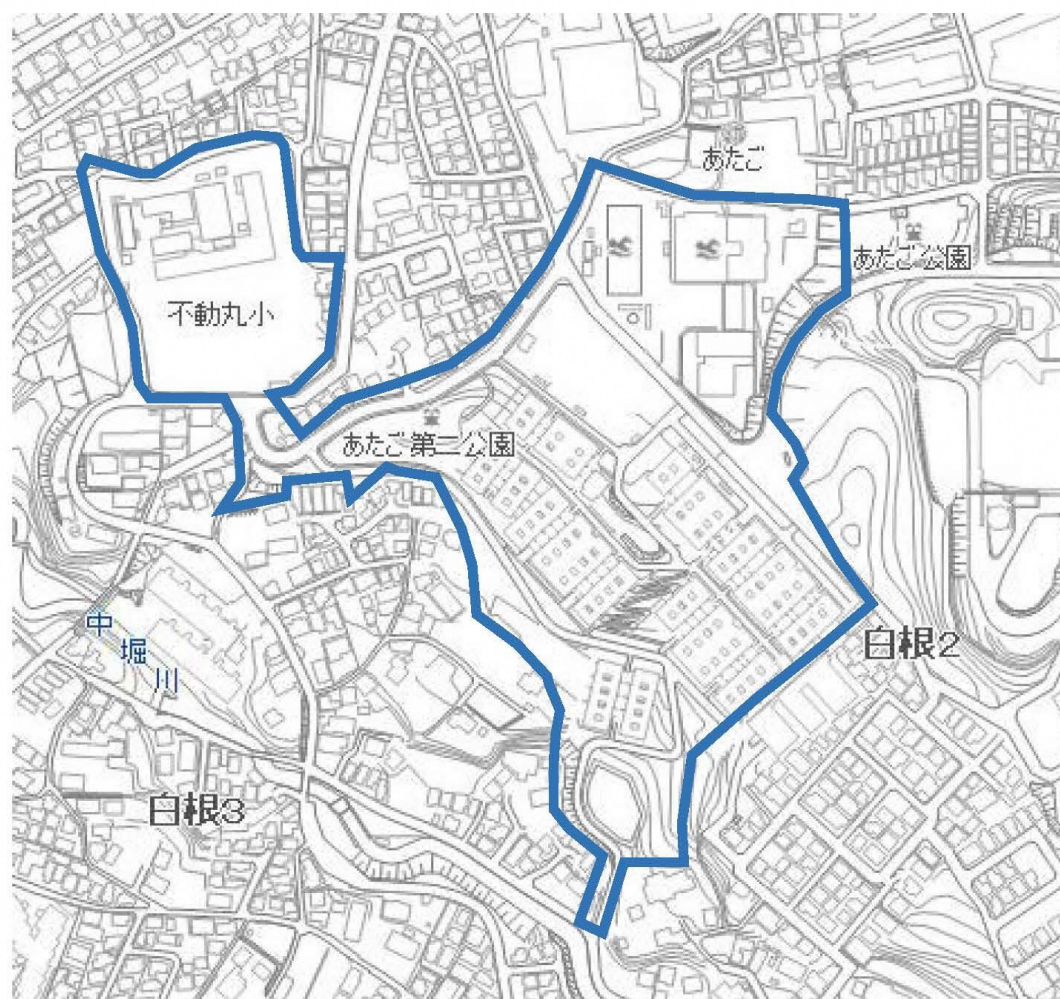
白根二丁目地区 地域緑化計画書

計画名：白根二丁目 地域と団地をつなぐ緑化計画

推進団体名：白根台みどり推進会



地区の範囲



<p>計画期間</p>	<p>令和4年度 ～ 令和6年度</p>
<p>計画の目標</p>	<p>《提案計画の目標》 楽しみながら緑を育て、人と人とのつながりを持つきっかけとする。 次の世代へ、地域緑のまちづくりの思いを継承していく。</p> <p><具体的な目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) お出迎え 市営バスターミナルから見える部分、団地エントランス、管理棟周辺などを緑化して、地域と団地の来訪者をお迎えする。 2) 回遊する 団地内の公開空地沿いに、老若男女が四季を感じ、四季を楽しめるように緑化し地域に開く。 3) 愛でる 地域住民一人一人がシンボルツリーを大切にす。老木のソメイヨシノ、各棟別のケヤキ等の樹木診断や、樹勢回復など手当てをする。 4) つなげる 緑で地域と団地をつなげるように、管理棟周辺と「旧販売所跡地」を緑化整備し幼児からシニアまで一緒に楽しめる空間を生み出す。
<p>課題及び背景</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 1986年に横浜市旭区の丘陵地帯に開発された当地は、南面する傾斜地を生かした設計で緑地が確保され植栽も豊富で、眺望にも恵まれている。 2) 世帯主の平均年齢は60歳代後半ながら、近年になって若い世代の居住者が増加し子供も増えてきた。ただし地域活動に主体的に参加する人達は少ない。 3) 団地内の緑は、かつては住民の力で草刈りなどを実施してきたが、最近が高齢化で困難となり植栽業者任せとなっている。 4) コロナ禍で地域住民は身近な場所でのコミュニケーションの機会を望んでいる。 5) 公開空地は、当初から小中学生の通学路や近隣住民の散策路となっていたが地域に向け、積極的には開かれていない。また住民にも周知されていない。
<p>課題解決及び効果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 傾斜地としての恵まれた眺望のある点を活かし、未利用地などテーマをもって緑化することで立体的な緑の環境が感じられる魅力ある地域となる。 2) 緑に関わる活動を通じて、徐々に増加している若い世代や地域との交流を図り、地域と団地の魅力を共有し、継承していくことができる。 3) 業者任せだった緑の管理は、住民が楽しみながら一部を担うことで、緑を通して地域や団地への愛着がわきコミュニケーションが深まる。 4) 高低差のある道を安全で快適な散策路とし、再整備、緑化する事で団地ならばこそその道として、地域との共有が可能となる。 5) 公開空地沿いを、四季の変化や連続的な眺望を活かすなど魅力を高め、回遊する空間を地域に積極的に開いていく。

<p>組織づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年に管理組合内でグリーンパートナー会議が発足し、植栽改善に取り組んで以来60数回にわたって改善の意義や効果を検討してきた。この10数名の組織を母体として拡充した組織として発足する。また自治会の緑のサークル活動と協力して、地域緑のまちづくり事業を楽しみながら持続していく。 ・まず当団地に存在する植物愛好者の関心を高める担当、次に地域にこの地区の魅力を伝える担当、補助金を得た後の会計担当や地域住民や小学生との緑化活動を企画実施する分担を決めて実施する。
<p>計画期間中の緑化整備及び活動の概要について</p>	<p><民有地緑化・景観木保全></p> <ul style="list-style-type: none"> ・団地内の共有空間や擁壁をはじめ、隣地マンションや周囲の戸建てに属する自治会などに声掛けをして、花壇設計などで統一感ある緑化を提案する。 ・バスターミナル内の三角地帯や旭プール、横浜市福寿荘の擁壁及び斜面緑化を提言する。また公道を通る人からプランターなどで見えるように緑化する。 ・団地内公開空地沿いの老木のソメイヨシノ計28本、同じくケヤキ計30本や梅1本を棟別シンボルツリーとして準備し、診断・治療・環境整備を実施する。 <p><地域緑化活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開空地から見える場所に設置するプランターなどの維持を、イベントなども取り入れながら自治会と共催で楽しく行う。 ・公開空地に隣接した1階専用庭での統一感ある四季の花づくりや、住民が小グループを作り自分たち好みで管理する、コミュニティガーデン活動を生み出す。 ・学習会に専門家をお呼びし、個人やグループの緑化技術のスキルアップを図る。 ・小学校と連携して旧販売所跡地の緑化活動を模索していく。
<p>計画期間終了後の活動について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・期間終了後の活動は白根台みどり推進会と、自治会緑のサークル活動とで引き続き担うが、相携えて地域住民の方が緑化活動を楽しみながら持続しやすいように、お手伝いをする。 ・緑で築いた人と人の関係づくりを大切にする。植栽や花苗に関連したイベントを四季に応じて企画し、老若男女の世代を超えた参加促進に努めて行く。 ・緑豊かなお出迎えのガーデン、公開空地などの名称を住民の方々に広く募り、皆で決定する。結果を広報誌でお伝えする。 ・横浜市緑の協会も積極的に活用する。公的な支援で花苗や種を廉価で定期的に購入する。
<p>資金計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画期間中に自己負担が発生する場合は、団地管理組合より拠出する旨の総会決議が済んでいる。毎年5月実施の総会で、本事業の年度監査と拠出金の決議がされる。 ・計画期間終了後の活動資金は、自治会のサークル支援や有志にお願いする。近隣住民へは説明を通してご理解を頂き、一部受益者負担も検討に加える。 ・地域住民の人的資源を生かし、メンテナンスにお金のかからないよう工夫をする。

計画年次	計 画 内 容
<p style="text-align: center;">1年度目 (令和4年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○民有地緑化 ・管理棟周辺を設計緑化し花いっぱいの花壇造りや地域を愛するシンボル樹を植樹する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公開空地隣接地の設計と緑化、1年目。12, 13号棟間に春を彩るシバザクラの増殖等を実施する。 ○景観木保全 ・西ソメイヨシノ列植5本など14本を診断・治療・環境整備。 ○地域緑化活動 ・ 四季に応じ学習会を開催。地域密着の緑化を広報誌で宣伝して理解者を増やす。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家による手間のかからない草木管理のための講演会や、花いっぱいのイベントなど企画実施。 ・ 当事業のために整備した箇所の維持管理用の花苗や、用具や倉庫の購入。
<p style="text-align: center;">2年度目 (令和5年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○民有地緑化 ・南西部「旧案内所跡地」を設計緑化。コキア、ハーブ類や柑橘類を植え、四季を楽しめる工夫をする。あたご第二公園は土木事務所と協力して擁壁緑化を検討。小学校と協力して通学路を緑化。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公開空地隣接地の緑化2年目。コミュニティガーデンづくり。団地内の1F専用庭、空地、斜面、未利用地などにプランターを活用するなど工夫して緑化する。 ○景観木保全 ・ソメイヨシノ計14本と紅梅1本、ケヤキ計17本の総計32本の診断・治療・環境整備。 ○地域緑化活動 ・花や緑・木の実・花苗の講習会（学習講座）を実施。Xマスリース造りや、またはしめ縄造りイベントを企画して実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報誌発行や各種講習会（個人向け緑化技術アップの学習会など）を開催する。 ・ 当事業のために整備した箇所の維持管理用の花苗や、用具や倉庫の購入。
<p style="text-align: center;">3年度目 (令和6年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○民有地緑化 ・バスターミナル周辺用地、横浜市福寿荘や、旭プール擁壁及び斜面を団地擁壁とも緑化。なおバスターミナル内三角地帯は、①既存の樹木を活かす。②コンテナの水やりを提案する、など土木事務所と相談する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公開空地隣接地の緑化実施3年目。遊歩道が緑豊かに、かつ既存樹林地ともつながるように仕上げる。 ○景観木保全 ・ケヤキ合計13本を診断・治療・環境整備。 ○地域緑化活動 ・(仮称)白根台みどりのフェスティバルや、緑と健康のウォーキングなど、地域住民が集まりやすいイベントを企画して、来たる2027年横浜国際花博につなげていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 育てた木や草を生かした作品作りを企画。広報誌作成。各種講習会、学習会を開催。 ・ 当事業のために整備した箇所の維持管理のための花苗や、用具や倉庫の購入。
<p style="text-align: center;">創意工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開空地沿いの緑化で、恵まれた眺望を活かして地域の魅力を感じ取る事ができる。 ・ 小学校が近接する立地を活かし子ども達と一緒に通学路の魅力アップに取り組む。 ・ 多様な公共施設が隣接する特徴を活かしてプール、福寿荘、バス停前などを緑化でつなぐ。 ・ 団地内共有地などにコミュニティガーデンを設け自由に活動できる場を設けていく。

白根二丁目 地域と団地をつなぐ緑化計画図

- 1. **管理棟及び周辺の緑化** (お出迎え) R4 年度
- 2. **公開空地沿いの適地を緑化** (回遊する) R4~6 年度
- 3. **通学路~バスターミナル周辺の緑化** (つなげる) R6 年度

- 4. **旧案内所跡地と周辺を地域で協働整備** (つなげる) R5 年度
- 5. **地域に愛される景観木の保全** (愛でる) R4~R6 年度

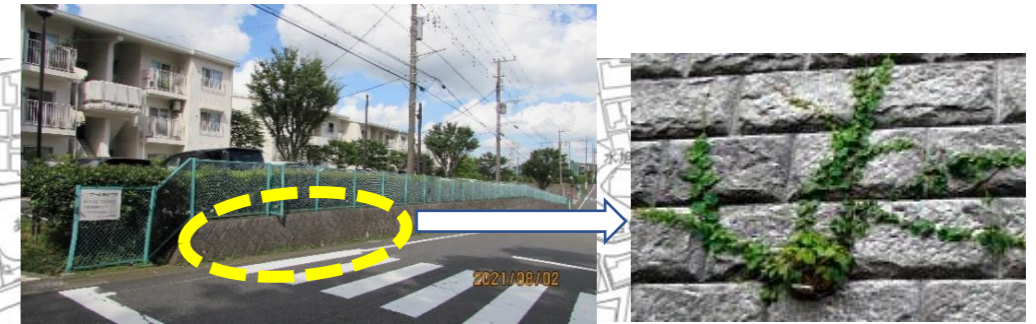
1



通学路も公開空地も交差する管理棟周辺を花いっぱいにし住民の憩いの場所を作る。



3



地域住民の行きかうバスターミナルの公道添いの福寿荘や旭プール、あたご第二公園から小学校までの通学路沿いの擁壁及び斜面を緑化する。

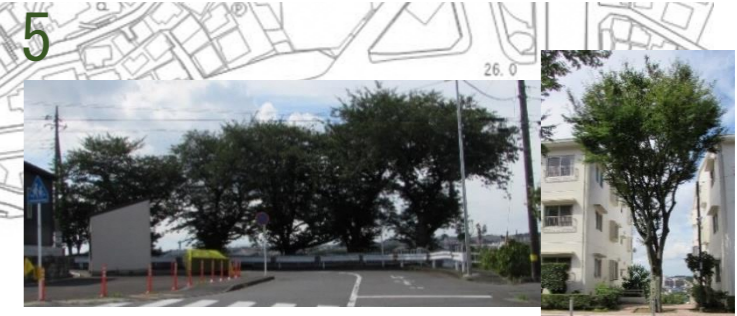


かねてから小中学生の通学路であり、地域住民の散策路でもある公開空地沿いの空地、未利用地や1階専用庭などに目に優しい緑を増やす。

4



旧案内所跡地を再整備して、小学生からシニアまで交流ができるように。また季節の花を地域住民で楽しめるよう開放する。 コキア・ハーブ類等々



西5本列植のソメイヨシノ等計28本、紅梅1本。地域に愛されるケヤキ計30本を診断、治療し環境整備する。

概算事業費（単位：千円）（注1,5）

助成項目	細目	1年度目（令和4年度）	2年度目（令和5年度）	3年度目（令和6年度）	項目ごとの合計	※【参考】 助成率・助成金額の上限	
1 民有地緑化	①設計等経費	600	800	300	1,700	100%以内	
		(主な内容) ・管理棟周辺緑化設計 ・公開空地隣接地適地選緑化1年目設計	(主な内容) ・「旧案内所跡地」緑化設計 ・小学校通学路緑化設計 ・公開空地隣接地適地選緑化2年目設計	(主な内容) ・公開空地隣接地適地選緑化3年目設計 ・北側エントランス～バスターミナル～あたご第二公園等擁壁や斜面を緑化設計			
	②緑化整備等経費 (注2)	3,778	4,667	1,889	10,334	90%以内	
		(主な内容) ・管理棟周辺緑化整備 ・公開空地隣接地適地選緑化整備1年目	(主な内容) ・「旧案内所跡地」緑化設計 ・小学校通学路緑化整備 ・公開空地隣接地適地選緑化整備2年目	(主な内容) ・公開空地隣接地適地選緑化3年目整備 ・北側エントランス～バスターミナル～あたご第二公園等擁壁及び斜面を緑化整備			
合計額 (注9)	概算事業費	4,378	5,467	2,189	12,034		
	(助成見込額)	4,000	5,000	2,000	11,000		
2 景観木保全	①調査費	0	0	0	0	100%以内	
	②診断書作成費	280	640	250	1,170	100%以内 (上限20千円/本)	
	③治療費	235	430	0	665	③と④は各景観 木1本につき、 合計50千円以内	100%以内 (上限50千円/ 本)
	④環境整備費	235	430	0	665		100%以内 (上限50千円/ 本)
	合計額 (注9)	概算事業費	750	1,500	250	2,500	
(助成見込額)		(750)	(1500)	(250)	2,500		
3 地域緑化活動 (注3)	①維持・管理費	230	230	230	690	100%以内	
	②広報・研修費	200	200	200	600	100%以内	
	③事務費	50	50	50	150	①～④の合計 1,000千円以内 /年度	100%以内 (上限100千円/ 年度)
	④諸雑費	20	20	20	60		100%以内 (上限40千円/ 年度)
	合計額 (注9)	概算事業費	500	500	500	1,500	
(助成見込額)		(500)	(500)	(500)	1,500		
年度ごとの合計 (注4,6,7,8)	概算事業費	5,628	7,467	2,939	16,034	助成見込額の3年度の 総合計が15,000千円以内	
	(助成見込額)	5,250	7,000	2,750	15,000		
					総合計		

(記入時の注意事項)

- 注1：各細目には、提案計画の助成金と自己負担金を含めた概算事業費（予定金額）を記入してください。計画がない項目や細目は、0（ゼロ）を記入してください。
- 注2：民有地緑化の緑化整備等経費には、最低10%の自己負担金が必要となります。（助成金申請時に、自己負担金を用意できることが助成金交付の要件となります。）
- 注3：地域緑化活動の助成項目では、1年度につき1,000千円が助成金額の上限となります。
- 注4：民有地緑化、景観木保全、地域緑化活動の助成金の合計は3年度で15,000千円が助成金額の上限となります。
- 注5：千円単位で記入してください。（なお助成金額は、千円未満切り捨てとなり、端数は自己負担金となります。）
- 注6：本概算事業費の年度ごとの合計金額を上回る助成金の申請はできません。
- 注7：年度ごとの概算事業費を作成することとし、年度間での助成金のやりとりはできません。（年度ごとに助成事業を完了させる必要があります。）
- 注8：上限内での年度ごとの項目内における、細目間での事業計画の見直しは、可能です。（4年度の地域緑化活動における維持管理費を増やし、その分の広報研修費を減らすなど）
- 注9：各項目内における細目の合計欄には、概算事業費（予定金額）と、助成見込額の合計を記入してください。なお、助成見込額には、（）を付けてください。